

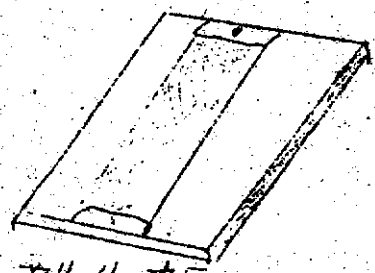


# 発足に期待する

島崎 稔

旧たくしは村塾社会学には、内外漢の  
者であるが、もつた、ある暇村調査に因  
係して行るので敢然入会した。  
東京からすこし離れた一地方中都市の  
学校につとめてゐるが、そこには暇村出  
の学生が多い、彼等はよく勉強するし  
かし、そのゆりに勉強が苦にならない、し  
れと同じ印象を内外漢の旧たくしは、従  
来の村塾社会学にかんじて、小々な  
却落に入つて、非常にめんみつた、各人  
互的を方途をもち、調査を行われ、  
実直な成果、しかしてそこには、なにが理  
代的なアツポイントするものが欠けてゐる、  
旧たくし銀のようさかかひ味があるのか  
も知れなから、素人には、なじめられ、  
一事には、固有の思想、問題意識、他方  
には自然科學的なるもの、東方、態度、調

ネクター、神上、バカヤロウ、  
田舎、政進への復活の目ざし、  
新機をよむような二の噴である。  
疑止ばぬが、なんでも話しあはう、こ



カリ板

通信、火山のせなくしてはなうぬ、記事が  
多くてこれをごろか困るよになれば  
——これが我々の切めである。

(編集者)

森友、初リ、これもありか大じら成なり、  
さいわい、この会は、勉強村史、救済業  
を清ぼつる方面の人を参加しようといふ、  
みおりに期待したけい。  
とりつて村塾社会学が、急に、田舎の  
厚化粧になつて困るが

(高崎市大)